

事務事業評価表(既存事業)

コード 13-2-5	事務事業名 少年野球教室	所管部課 生涯学習部スポーツ振興課					
事務事業の概要	事務事業の目的 児童の野球技術の向上、健康増進及びスポーツの振興を図る。参加者の増を目指す。	総合計画上の位置づけ (政策)創造性の育つまちづくり (施策)スポーツ・レクリエーション活動の振興(創3-3) (主要施策)スポーツ・レクリエーションの普及					
	実施内容、実施方法 元プロ野球選手による市内の児童を対象とした少年野球教室を行う。	根拠法令等					
	事業開始時期 平成 13 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()					
評価指標の設定	活動指標名 開催回数	活動指標の考え方(定義) 野球教室を開催した回数					
	成果指標名 参加者数	成果指標の考え方(定義) 野球教室に参加した人数(目標500人)					
事務事業データ		単位	14年度	15年度	16年度	17年度	
	事業費(A)		1,036	1,744	1,080	951	
	国庫支出金	千円					
	都支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源		1,036	1,744	1,080	951	
	所要人員(B)	人	0.10	0.20	0.20	0.10	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	825	1,655	1,666	833	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	1,860.60	3,398.60	2,745.60	1,783.80	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(参加者数)	千円	3.10	6.11	6.70		
	歳入	千円					
	活動指標	目標値	回			1	1
		実績値	回	1	1	1	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	人			500	500	
	実績値	人	600	556	410		
成果指標	目標値						
	実績値						
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	毎年楽しみにしている児童が多い。					
	国・都・他市・民間等 における類似事業	早稲田大学野球教室					
	運営上の制約条件・ 外部要因等	7人の講師を招くため、講師の選出に時間がかかる。					

コード 13-2-5	事務事業名 少年野球教室	所管部課 生涯学習部スポーツ振興課
---------------	-----------------	----------------------

事業所管部評価	項目	評価結果	判断理由、説明等
	実績	<input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	合併後、毎年400人～600人の児童の参加者がある。
	必要性	<input type="checkbox"/> 増大 <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	野球はメジャースポーツとして児童青少年の間に定着しており、児童青少年のスポーツ振興に十分寄与していることから、今後についても事業の継続が必要と考える。
	効率性	<input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	西東京市軟式野球連盟少年部が少年野球実行委員会を作り実施しているため、事務局職員数は適正である。
	公平性	<input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	市内全域の小学生が対象。
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	4年間連続して事業を行っているため定着してきており、今後も継続して実施することが望ましい。

17年度における改善点	平成16年度予算から13.1%の経費節減を行った。今後さらに報酬等について削減が可能であるか検討の必要がある。
-------------	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止
--------	--

評価の視点

- 実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など
- 必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など
- 効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など
- 公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など
- 総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。
 - 拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。
 - 継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。
 - 改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。
 - 抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。
 - 廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。